

月刊 あなたにこの本を！ 平成 26 年 5 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



絵本の記憶、子どもの気持ち

山口雅子 著
福音館書店 1000 円
(0012881094)

ジャンル : 子どもの成長のために

著者は、勤務先の大学で、学生に「思い出の絵本」のレポートを提出させた。そこには、子どもの頃、絵本を読んでもらった時に感じたことが生き生きと記されていた。忙しい母を独占できる絵本の時間が好きだった、自分にはできないいたずらをする主人公に憧れたなどの記述からは、子どもが絵本に何を求めているかが伝わってくる。今も昔も変わらず子どもを引きつける絵本の魅力と、それを身近な大人が読み聞かせることの大切さを改めて知ることができる。[019.5]



10種でわかる世界のチーズ =10 essential cheeses of the world

村瀬美幸 著
日本経済新聞出版社 1500 円
(0012887238)

ジャンル : 暮らしにうるおいを

ヨーロッパには1つの村に1つのチーズがあると言われる。著者は、国際的なチーズの鑑評大会で、日本人初の世界一に輝いた。本書では、代表的な10種類のチーズの特徴や逸話、楽しみ方を紹介する。例えば、山羊のチーズは、青々とした牧草を食べた初夏から夏にかけて、最も風味が豊かになるという。季節や場所で味わいが変わり、野菜のように旬があるというから驚きだ。モッツァレラにワサビじょう油などの意外な食べ方も披露され、奥深い世界が味わえる。[648]



豊国祭礼図を読む

黒田日出男 著
KADOKAWA 2000 円
(0012847056)

ジャンル : 歴史・文化に親しむ

「豊国祭礼図屏風」は、豊臣秀吉の七回忌に催された臨時祭礼の様子を描いたものだ。歴史図像学を専門とする著者は、現存する3点を取りあげて検証を試みた。例えば、秀吉の正妻おねの姿の描かれ方に着目し、誰が、いつ、どのような意図で制作を依頼したのか、画家はそれをどう表現したのかを読み解く。さらに、描かれ方の違いを生んだ人間関係や政治情勢などの背景までも明らかにしていく。ミステリーを読むような爽快感を味わえる。[721.8]

MAKINO**— 牧野富太郎生誕 150 年記念出版 —**

高知新聞社 編
北隆館 2200 円
(0012892744)

ジャンル：知識・教養を深める

植物学者、牧野富太郎は日本の全植物を分類、命名するという大望を抱いて各地の山野を巡り、約 40 万点の標本を収集した。本書は、そのゆかりの地を歩き、自叙伝などを引用しながら、平成 24 年で生誕 150 年を迎えた牧野の生涯をたどった。収録されている自筆の植物図は、写真を超える実在感があると評されるほどで、その精密さには目を見張られる。牧野の植物への愛と情熱がひしひしと伝わってくる。巻末にイラスト付きの全国踏査マップや年譜あり。〔Bマキノ〕

素顔の山中伸弥**— 記者が追った 2500 日 —**

毎日新聞科学環境部 著
ナカニシヤ出版 1800 円
(0012821429)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を開発し 50 歳でノーベル賞を受賞した山中教授の足跡と発言を新聞記者が追った。マウスの解剖は得意だと楽しそうに取り組む教授の姿が印象的だったと研究室のメンバーは語る。だじゃれを連発するなどの証言からは、大阪人の飾らないお茶目な一面も伝わる。現在 iPS細胞をめぐっては特許権の競争がし烈を極めている。その中で「研究の目的は難病で苦しむ多くの人々に治療を届けること」という教授の純粋さに心が打たれる。〔491.1〕

キャラクター・パワー**— ゆるキャラから国家ブランディングまで —**

青木貞茂 著
NHK出版 780 円
(0012897380)

ジャンル：現代社会を見つめる

広告代理店勤務を経て大学教授を勤める著者が、「ひこにゃん」から企業のマークまで、日本のキャラクター文化について論じた。社会に浸透した背景や「ゆるキャラ」にひかれる理由を、日本人の不完全さに価値を見出す心情や古来よりのアニミズムなどがあると著者は指摘する。キャラクターから日本文化の深層に迫るという切り口が新鮮だ。また、企業や商品のみならず、個人もキャラクター化することが、就活や人づきあいに有効ではと提言している点も斬新だ。〔674.1〕

鉄道と刑法のはなし

和田俊憲 著
NHK出版 780 円
(0012836517)

ジャンル：知識・教養を深める

時刻表検定 1 級を持つ法学者が鉄道と刑法のかかわりについて語る。鉄道の線路に障害物を置くと往來危険罪という犯罪になるが、明治 37 年には線路上に枕木を置いた鉄道会社の職員が流刑に処せられたという記録がある。人の出入りが多い鉄道は犯罪が起きやすい場所でもあり、ほかにも列車内で初めて起きた強盗殺人事件の裁判など、豊富な事例が紹介される。鉄道を刑法から見つめた類いない書で、やさしい解説により、一層興味をかきたてられる。〔686〕